

東館

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目）

取組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取組んで いきたい 項目	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
			理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)	自己評価24項目・外部評価14項目	9	
理念に基づく運営	1		理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)	自己評価3項目・外部評価2項目	1	
		1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本人の暮らしと家族の願いを支援できるよう職員で話し合い「笑顔」をキーワードとして地域での役割等を理念に創り上げた。	0	
		2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアプランや日々のケアが、理念にそったケアとしてできているのか、カンファレンス時に評価し共有化を図っている	1	理念を基に毎年職員一人一人の目標やユニットごとの目標を上げて、日々の暮らしの支援を行っている。
		3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念はユニットの玄関に掲示し訪問される方に分かるようにしている。運営推進会議の場でも機会あるごとに話している。家族会や便りにも載せて理解をはかっている。	0	
		2	2 地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)	自己評価3項目・外部評価1項目	2	
		4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩で近隣に出かけた時など、気軽に挨拶をするようにしている。	1	もっと気軽に行事などに参加して貰える様回覧や広報などを用いて知らせたい。
	5	地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議などを通して行事の案内をし参加して頂いている。近隣の子ども会などに依頼し交流を図っている。	1	7月には子ども会による太鼓の演奏を予定している。昨年の9月には地元の方が、敬老会の日に日舞を披露していただいた。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2 支地 え域 合と いの	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人会の催し物で介護予防教室への職員の参加や、運営推進会議を通して行事への参加、協力に取り組んでいる。	0	
		3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	2	
		7 外部 評価 4	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	カンファレンスを通して管理者より外部評価の意義などについて説明があり、全職員が理解した上で自己評価に取り組んでいる。又昨年外部評価の結果を基に改善案の検討や実践につなげるための努力をしている。	0	
		8 外部 評価 5	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、活動の様子、行事の予定などを報告し、委員の方の意見、アイデア等をお話いただいたり、又家族の方の気持ちを話して頂き広くグループホームの理解に勤めている。会議での検討事項について、現場への報告や現場での検討結果を会議で報告している。	0	
		9 外部 評価 6	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当グループホームを含む合同勉強会に市の職員の方を講師に招き研修会を行っている。	0	
		10 外部 評価 7	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	カンファレンスや勉強会を通して制度の理解に努めている。又必要な方は制度を利用してある。ご家族には機会あるごとに制度について話している。	1	研修会等には職員が参加し学ぶ機会を作っている。又カンファレンス等の機会に、社会福祉士が話をして、職員の知識の向上に努めている。今後は機会を増やしたい。
		11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する勉強会などは行われてないが、職員間に置いてお互いがなんでも話せる関係であり、虐待等が行われないように努めている。	1	ユニットごとにマニュアルがあり今後は虐待に関するの勉強会や話し合いを行っていききたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	2	
理念に基づく運営	4 理念を 実践す るため の体制	12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には料金等を始め具体的なケアに関する部分においても、利用者、ご家族の質問等を受け説明を行っている。解約時においても同様に行っている。	0	
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の会話の中で出てくる言葉や、そのかたの表情、態度を読み取り、職員や責任者に伝わるよう、申し送りやカンファレンスで話しあい検討している。	0	
		14	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族向けの便りを定期的に出しており、その中でその方の写真や日頃の様子を報告している。家族の面会時にも健康状態や日頃の出来事を伝えている。	1	個人ごとの便りの内容を充実していきたい。
		15	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置している。訪問時やケアプランの説明時に何でも話していただけるように機会を作っている。日頃より、ご家族に対して、世間話し等をしながらなんでも話しやすい雰囲気作りをしている。	1	ご家族が来られた際は、積極的に話しかけより話しやすい環境を作って行きたい。
		16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスの時、朝夕の申し送り時や、時間とは関係なく管理者は意見や提案を聞くようにしている。	0	
		17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な利用者の状況が変化し、人員不足が生じた場合、となりのユニットからの応援や、職員の急病などが発生した場合は、管理者が通常のシフトに入っていないので応援体勢を取れる。行事等で人員が必要な場合はあらかじめ分かっている部分については人員配置を行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基 づく運 営	4 理 念 の 実 践 制 す	18	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるよ うに、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利 用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が継続的に支える体制になっている が、職員の異動（新入職員）がある場合は馴染み の職員と挨拶、自己紹介を行ったり引継ぎのきか んを設けている。廊下に職員紹介の写真と自己紹 介のコメント等を載せている。	0	
		5	人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)	自己評価6項目・外部評価4項目	2	
	5 人 材 の 育 成 と 支 援	19	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や 年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生 きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよ う配慮している	職員の年齢や性別に採用基準は取ってない。採用 した職員一人ひとりの特技、能力を活かして力を 発揮出来るよう役割を持ってもらっている。	0	
		20	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するた めに、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	一般の研修会等での人権教育の講習会参加や日頃 のケアの中で、人権に関する話を行っている。又 「倫理」に関して毎朝本を読んで職員の意識向上に 努めている。	0	
		21	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をた て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	公的な機関の研修から、民間の研修機関の案内を 職員に広く情報を提供し、学ぶ機会を提供してい る。必要な研修においては、年間の計画を立て出 来る限り参加できるように配慮している。又資格 取得などについては勤務の配慮を行っている。又 研修後の発表を行っている。法人ないの勉強会を 定期的におこなっている。	1	研修の後に現場へ持ち帰る機会を増やし効果的な 研修へとつなげて行きたい。
		22	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、 ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス事業者協議会のグループホーム部会 などで勉強会や、レクリエーション等を通じて同 業者の交流を行っている。	1	他施設の見学などを行い交流を図り、先々花見や 祭りなどの合同行事などを行って行きたい。
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境 づくりに取り組んでいる	年2回の全体でのレクリエーションや野球チーム を作り親睦を図っている。各部署ごとに職員の歓 送迎会の補助金が支給されていてストレスの軽減 に活用している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人 支材 援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が資格取得や研修に行く事に協力的であり向上心に対して評価を行っている。(資格取得者の表彰や資格手当)	0	
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2(自己 25～34・外部 15～16)				自己評価10項目・外部評価2項目	3	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)			自己評価4項目・外部評価1項目	0	
	1 相談 から 利用 に至 るま での 関係 づく り と そ の 対 応	25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時に本人の状態、状況が出来る限り細部にわたって分かるように、本人さんに直接面談し話しを聞くようにしている。	0	
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時に家族が置かれている状況をしっかり聞いて、家族が望んであることを把握するようにしている。	0	
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の状況を確認し本当に入居を必要としているのかを検討し、在宅でのサービスを活用することで対応できるようであればいろんな提案をしながら、入居の必要性を検討している。	0	
		28 外部 評価 15	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が必要であっても、いきなり入居してもらうのではなく、空き部屋があればショートステイの利用で少しずつ慣れてもらったり、他施設からの入居の場合、遊びに来ていただいたり、実費のみで泊まりの体験の利用をして頂いて慣れていただいている。	0	
	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)			自己評価6項目・外部評価1項目	3	
係り と こ れ な 関 係 づ く り の 支 援	29 外部 評価 16	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフと利用者という立場でなく、共に過ごし、泣いたり、笑ったり、喜んだりして、人生の先輩として生活の知恵などを教えてもらいながら支えあえるよう努めている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪問された際に利用者の方が話されたことや、写真を見てもらいながら細かい状況を伝えている。一緒におやつを食べていただいたり、食事をして頂きながらその方を支えていけるような関係を作っている。	1	食事会や日頃の行事にもっと参加して頂けるようにしていきたい。(回数を増やしたり)
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常生活の様子を手紙(写真入り)で定期的を送ったり、又行事等の案内をして参加を呼びかけ関係づくりをしている。ご家族が来られたら、職員も仲間に入れていただき日頃の様子を話しながら家族との関わりを大切にしている。	0	
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人、友人が訪ねてこられたり、遠方の親せきからの電話がかかってきたりとこれまでの関係が途切れないように、配慮している。	1	今後は来ていただくばかりでなく、こちらからも出向いていく機会を作って行きたい。
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の時はスタッフも一緒に食事をしながら、会話が広がるように話しかけている。入居者同志の関係が上手くいくように、席の配置を考慮したりお互いが関係を保てるような関係作りをおこなっている。	1	入居者同士の関係がよりもてるように職員が潤滑油になれるよう努めて行きたい。
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院の為その生活の場にいられない方には、干羽鶴を持ってお見舞いに行ったり、顔を出したりと関係を持っている。又サービスを終わられたかたにも、失礼のない範囲で広報を送っている。	0	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1~4 (自己 35~51・外部 17~22)				自己評価17項目・外部評価6項目	5	
1 一人ひとりの把握(自己 35~37・外部 17)				自己評価3項目・外部評価1項目	2	
1 の 一 把 人 握 ひ と り	35 外 部 評 価 17	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		日々の生活の中で小さな気づきを増やし(利用者の行動や表情などから、言葉にしづらい思い)、家族と相談しながら思いなどをくみ取っていく。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からセンター方式のアセスメントに記入して頂き、生活歴の把握に努めている。又日々の会話の中で今までの暮らしぶり、趣味などを聞いてケアにつなげている。	1	センター方式の情報収集、活用度を上げ一人一人のケアの向上につなげていきたい。
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の生活リズムや満足感など変化を見落とす事のないよう、職員同士が気付きやアイデアの情報交換し把握に努めている。	1	総合的な理解はもちろん、その方の出来る事や、出来そうなことにもっと目を向けて日々のケアに活かしていきたい。
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)	自己評価3項目・外部評価2項目	1		
	2 介護計画の作成と見直し 本人がより良く暮らし続けるための	38 外部評価18	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族が日々の生活の中で何を望んでいるのか何に困っているのかを、訪問時やプラン作成、変更時に拘らず聞くようにしておりプランへ反映させるようにしている。又カンファレンスにおいて、職員全員の意見を出し合ってプラン作成に努めている。	0	
		39 外部評価19	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態が変化した時は(悪化)(向上)家族に報告相談しながらその都度見直している。健康面の変化は協力の医療機関や医療連携機関と相談しながら行なっている。月1回のカンファレンスに介護計画を下に話し合いをしている。	0	
		40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見てもわかるように、個別に本人の言葉やいつもと違う行動、それに対するスタッフの対応などの記録をしている。、大事な事は送りノートに記録し全職員が把握して介護計画の見直しを行っている。	1	毎日の生活記録を記入する時、介護計画と照らし合わせ計画に沿ったケアが出来ているか確認している。
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)	自己評価1項目・外部評価1項目	0		
	3 柔軟な支援	41 外部評価20	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況に合わせて訪問看護などの利用を、入院による本人の負担とならないように医療的な処置を受けてもらい安心のある生活を支援している。空き部屋によるショートステイを利用していたき在宅からのリロケーションダメージの軽減や、併設のデイサービスの活用で、その方に合わせた支援を行なっている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	2	
		42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や自治会長など運営推進会議を通して意見交換を行ないながら地域への働きかけ、協力を得ている。専門学校の実習生の受け入れ、地元の施設を活用している。	1	運営推進会議のメンバー等を幅広く参加して頂き、グループホームの理解等も含めた活動を検討していきたい。
	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
		43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の公園や、文化センター、美術館、地域のお祭への参加など本人の意向や季節に合わせた活用をしている。訪問理美容サービスもその方に合わせた活用をしている。	0	
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が毎回参加され情報交換を行なっている。以前地域の方から「転居して地元の方と接する機会がないので、ボランティアをしたいがどこへ相談したら良いかわからない」と相談があり、今後は包括支援センターとの協働でこのようなケースに対応していきたい。	0	
		45	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人家族の希望を取り入れている。又協力医療機関への受診は通院介助を行なっている。家族に協力願える方や、ご家族の協力が必要な場合においてはその都度ご理解を頂き適切な医療が受けられるよう支援している。	0	
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科や神経科の病院を協力医療機関として日頃より、診察や電話相談で認知症に関する助言、指導を受けている。	0	
	47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの契約により月2回以上の訪問と24時間対応の電話や夜間の訪問、日頃の利用者のことを気軽に相談したり、ケアについての指導を受けることが出来る。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療法人であり日頃より利用者の相談や情報交換などを行い入院時に安心して医療が受けられるよう連携を行なっている。又入院となった場合でも職員が行き来して支援している。	0	
		49 外部評価 22	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を作成し、入居時に説明を行っている。又食事が入らなくなってきたり、状況的に重度化されてきたら、医師より現状の説明及び、家族の意向を確認し今後の方針を定め、支援に繋がれるようにしている。終末期では家族の気持ち、本人の思いを尊重し「同意書」を交わして方針の共有に努めている。	0	
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「看取り同意書」にもとずいて、医療面は訪問看護や法人の病院と連携を取り、安心して最期を迎えられるよう、ご家族、ご本人を支える為職員が一体となり、カンファレンス等を開きながら取り組んでいる。	0	
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設からの入居の方については家族、本人との話し合い。お試しの泊まり、昼間の訪問の受け入れなどでダメージを防ぐことを行なった。併設のデイサービスの利用、ショートステイの利用なども行なえるようにしている。	1	こちらのグループホームから他の施設に移られる時に、施設まで職員が付き添い送っていく事はあるがその後の訪問などまでは出来てない状況である。(移られた後に手紙を出すことはある。) 今後はこの後の支援も検討していきたい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己 52～89・外部 23～33)				自己評価 3 8 項目・外部評価 1 1 項目	13	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)		自己評価 3 0 項目・外部評価 9 項目	11	
		52 外部評価 23	(1) 一人ひとり尊重(自己 52～54・外部 23～24)	自己評価 3 項目・外部評価 2 項目	1	
			プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレへの声かけは本人だけに聞こえるように、耳元で話したり、居室で更衣をする時とドアを閉めたり、トイレのドアを閉めてプライバシーを損なわないように配慮している。又申し送りの時にもまわりの状況を把握し大声で個人名を出さないようにしている。面会簿のノートを記入後箱に入れていただき情報の取扱いに配慮している。	0	
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活の場面に合わせて、利用者が決められるような言葉かけや、耳が聞こえにくい人には時間をかけ、文字に表わし本人が納得して決めて頂いている。(起きる時間、食べる時間、外出、入浴など本人の意向を大切にしている)	1	こちらが気が付かずにいる、利用者の気持ちをもっとくみ取り、意思表示のサインや、意思表示できる場面を作って行きたい。		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の今までの生活リズムを大切にし、皆と居ることにとらわれず、本人の気持ちを優先した生活の支援をおこなっている。	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55~60・外部 25~26)	自己評価 6 項目・外部評価 2 項目	1	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分の好みが表示できる人には一緒に服を決めたり、表現できにくい方には、ご家族に好みを聞いたりしてその人らしい装いを支援している。又理美容は訪問サービスを利用しているが、好みは本人さんに聞いてパーマ、白髪染めなど本人の希望に沿っている。気に入らない場合は近くの美容室へ出かけることもある。	0	
		56 外部評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と同じ物を一緒にテーブルで食べており、時々その方の好きなものを分け合ったりして楽しみながら食べている。配膳、後片付けなどその方のできる事を職員と一緒にして楽しんでいる。	1	利用者の好きなものを外食で食べに行く事があるが、機会が少なくこれからもっと機会を増やしたい。好きな食べ物を一緒に買いに行き楽しみながら食べられるようにしたい。
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が好きな食べ物を職員と一緒に出かけかけてきて食べていただいている。お酒や、タバコの好きな方は楽しめるようにしている。おやつは皆が好きなもの、良く食べていただくもの、いつものおやつより値段がはっても高いもの、極上のものなどを用意しておやつを楽しめるようにしている。	0	
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを全員が把握しており、職員が情報を伝え合い、本人に無理のないさり気ない声かけと、おむつやりハビリパンツでもトイレでの排泄が出来るようにしている。トイレが解らない方は、排泄のサインを見逃さないようにして失敗のないよう誘導を行なっている。	0	
		59 外部評価 26	入浴を楽しむことのできる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日を決めているが、本人がその日に入られなかったり、入浴が必要な時はその都度お風呂に入ってもらっている。又入浴を嫌がられたときは足浴、清拭などを行なっている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間不安で眠れない時は傍に寄り添い声かけたり添い寝してスキンシップを取り安心出来るようにしている。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61～66・外部 27～28)	自己評価 6 項目・外部評価 2 項目	3	
		61 外部評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人にあった役割を發揮できるような場面作り（新聞取り、花の水遣り、洗濯たたみ、持ちつきの準備、雑巾作り、など）をして張り合いがもてるようにしている。	0	
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会を支援していけるよう、一人一人の状況を把握し、出来る部分を行なっている。	1	家族と相談しながら本人がお金を持って使う機会を増やして行きたい。
		63 外部評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の体調や気分に応じて、日常的に散歩や買い物に行ったり、お弁当を持ちピクニックへ出かけたりしている。	1	外出を好む方はいつでも出かけられるように取り組んで行きたい。
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	買い物や公園、散歩などには良く出かけるが利用者や家族とともに出かけたりの機会が少ない。ご家族と外泊される場合は健康管理などに気をつけ支援している。	1	個別に利用者が行って見たい所などを検討し実現して行きたい。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設けて気兼ねなく家族や知人に電話できるようにしている。又家族からの電話を取り次いだり気兼ねなく話せるようにしている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	訪問の時間を決めておらず、自由に行き来できるようにしている。ご家族がおいでになると、日頃の様子をお話して気軽に来れるよう工夫している。	0		
		(4) 安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)			自己評価8項目・外部評価2項目	5	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームケアが拘束をしないケアを基本としている事を常日頃より話しており、無意識で行なっている事の中に拘束に結びついてないか職員同士で気付きあえるようにしている。	1	権利擁護等の勉強会を行なっているが今後も意識の向上をめざして行きたい。	
		68	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や中庭に出るドアは鍵をかけず、外出される様子があれば止める事はせず、安全に配慮して、さり気ない声かけや一緒に外出をしている。建物の構造が、台所にいると玄関やそとへのドアが見渡せて見守りしやすいように設計されている為、鍵をかけないケアにとっても有効である。	1	今後も鍵をかけないケアに取り組んで行きたい。	
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアにかならず職員が一人いて安全の確認を行い、記録物等も傍に利用者がいるところで行っている。居室に一人でいられる利用者には時間ごとにそっと訪問し見守っている。夜間は全体が見渡せる場所にて待機している。	0		
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を 律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共同生活の場では安全面を考え保管管理をしている。居室においては利用者一人一人に応じた管理をするようにしている。(はさみ、ガラス製品、洗剤、髭剃りなど)	0		
		71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状況から予測される事故に関しては職員で話し合い、検討している。(転倒、異食、離脱、誤嚥) インシデント、アクシデントの報告を行い、カンファレンスにて検討、対策をおこなっている。	1	インシデントに対しての話し合いをカンファレンスにて行って行きたい。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習を職員が受けているが、緊急時の対応が発揮できるように日頃より訓練を行いたい。緊急時のマニュアルを作っているので全員が習得できるようにしたい。	1	マニュアルの熟知や訓練を行い実践できるようにしていきたい。
		73 外部評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署に協力を得て避難訓練や消火訓練を行なっている。	1	訓練の回数を増やして身につけて行きたい。
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の希望により安全面の対策をせざるおえない場合はすぐに受け入れず、リスクについて何度も話し合いながら対応している。	0	
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75~81・外部 31)	自己評価 7 項目・外部評価 1 項目	1	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康観察（食事、排便、排尿、体温など）から些細な変化を察知できるよう日頃の申し送り等で情報を共有し必要な時は病院受診につなげている。	0	
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の一覧表を作り職員がわかるようにしている。薬手帳も活用し状態の変化を医師に相談報告している。	0	
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分をなかなか取られない方にはその方が好まれる飲み物を用意するなど、排便がしやすいように工夫をしている。おやつに繊維質のものを取り入れたりしている。散歩などの運動や腹部マッサージなども行っている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後うがいや歯磨きを促したり、出来ない人には口腔ケアを行っている。年に1回全員の方に歯の検診を行なっている。	1	スタッフひとり一人が口腔ケアの知識の向上を目指し歯科の先生より指導を受け役立てていきたい。
		79	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事の量を記録し、水分については必要な人について記録している。摂取量の変化を把握し看護師、栄養士と相談しながら食の支援を行なっている。	0	
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	起こりうる感染症についてマニュアルを作成し、予防に努めている。（使い捨て手袋、ペーパータオル、アルコール消毒液）を使用。インフルエンザの予防接種については特に問題がない人は全員接種している。（職員を含む）	0	
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾、まな板等は毎日1回殺菌消毒している。食器は乾燥機にて乾燥、冷蔵庫は定期的に清掃し、賞味期限切れについては処分を行なっている。又日付をつけて管理している。	0	
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)		自己評価8項目・外部評価2項目	2	
	2 生活の環境づくり その人らしい暮らしを支える	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)		自己評価5項目・外部評価2項目	1	
		82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ユニットごとの入り口には看板をあげ、通りがかりの人が分かりやすいようにしている。庭には花を植え明るく楽しい雰囲気を作り入りやすいように工夫している。	0	
		83	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じてテーブルに花や季節の野菜などその季節の物を置いて、見たり触ったりできるように心がけている。居間からは中庭が見れて、季節がわかる。居室を出ると台所が見え匂い、音、職員の様子を知る事が出来る。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の一角に椅子、ソファを置いて居心地のよい空間がある。静養室にはコタツ座布団などがあって横になったり、自由に過ごせる場所がある。	0		
		85 外部評価 33	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたなじみのものを活かしその人が落ち着く空間づくりをしている。家族の写真や利用者本人が好まれるものを持ち込んでいる。	0		
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇や消臭剤を使って気になる匂いがこもらない様になっている。ゴミ箱は定期的に洗っている。掃除のときは窓を開け換気を必ず行っている。	0		
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	1	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能に応じて必要などところに手すりをつけたり、家具や柱にはクッションをつけて安全に配慮している。	0		
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には個人名を書いて解るようにしている。トイレには「便所」とつけたり混乱のないように工夫している。	0		
		89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には利用者が自分の鉢植えを出したり、花に水をやったり、犬と触れ合う事が出来るようにしている。	1	もっと中庭が活用できるように行き来がしやすいように工夫して、外気に触れて過ごせるようにしたい。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	
サービスの 成果に 関する 項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	3		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	2		
	98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	3		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	2	
		100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	2	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	2	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。